

## 第2回「看護基礎教育の充実に関する検討会」

### 議 事 次 第

平成18年5月12日（金）

15:00～17:00

厚生労働省 省議室（9階）

開 会

議 題

1. 看護教育をめぐる現状と課題
2. その他

閉 会

### 資料

- 資料1 第1回看護基礎教育の充実に関する検討会 主な意見
- 資料2 新卒看護職員の早期離職の状況（病床規模別）
- 資料3 看護師養成課程卒業者の状況
- 資料4 看護師3年課程の教育時間・実習時間の推移

## 第1回 看護基礎教育の充実に関する検討会 主な意見

1. 看護基礎教育で習得する看護技術と臨床現場で求められるものとのギャップに関するもの
  - 基本技術について、例えば急性期病院では、シリンジポンプの調整や人工呼吸器の管理をすること、心電図を読むことを新人は求められており、資料に記載されている基本技術ができたとしても現場とは大変乖離している。
  - 看護学校を卒業した人たちは、配属部署の専門的な知識・技術を持っていないため、医療現場についていけずに辞めていく。特に高度医療の病院からどんどん辞めていき、楽な病院に移っている。
  - 離職率が基礎教育だけの問題ではなく、臨床研修の体制も非常に重要になる。そういうことも視野に入れてアウトプットを出すような議論をしてほしい。
  
2. 看護基礎教育と新人看護職員研修との役割分担に関するもの
  - 新人に蘇生術ができることは求めている。基礎教育でやっていない基本技術について基本的な知識があるか、それを基本的に理解できる能力があるのか疑問。
  - 急性期から療養型までさまざまな病院があり、新人にそのすべてに対応できるようにしなさいというのは無理。ギャップがあることを前提として、養成課程で教育すべきことと、オン・ザ・ジョブでやるべきことは区別して考えなければいけない。
  - 身体侵襲を伴うような技術に関しては、無資格の学生が実施できる範囲等が限られており、教育期間や卒後臨床研修が可能かどうかによって、基礎教育での到達レベルも変化してくる。
  - 臨床研修も含めて検討してほしい。

### 3. 看護基礎教育の内容に関するもの

- 病院に入ってからトレーニングが必要であるということは、基礎教育がなっていないということであり、現行の指定規則は直さざるを得ない。
- 新任者が訓練期間なく、ある程度の実践ができるということを前提としたカリキュラムなのか、国家資格を持った場合に、何ができれば、どのような仕事をさせられるのか、を整理しなければならない。
- 訴えられることに耐え得る技術・知識を持たねばならないなど、この10年で日本の医療や医療技術も大きく変わっているのに対して、看護教育があまり変わっていない。
- 看護の専門性というのをどのように捉えるのか。変化に対応できる看護師という意味の専門性と、いまの技術に対応するという専門性は区別すべき。
- 知識が増え、学ばなければならないことが増えている中で、基本的に何を学ばせれば現場に行って応用できるか。人間の生理、病理、解剖、薬理に関すること、フィジカル・アセスメントなど、基本的な力をつけるためにカリキュラムの内容、構成など、もう少し焦点を絞った基礎教育のあり方を考えてほしい。
- 今は著しく技術の部分が少なく、基礎教育のあり方、特に技術のところで臨地実習の充実をもっと真剣に考えていかなければいけない。
- 基礎教育で求められる能力は、すでに検討されてきており、求められていることができるためにはどうしたらいいのかという議論をするべきではないか。
- どのような看護基礎教育のあり方が望ましいかというのは、患者側がどういう看護師であってほしいか、あるいは患者と家族たちが求める看護師像みたいなものもあり、同時に議論が必要ではないか。
- 高校までの教育の中で常識なり学力として培われてきた部分も変化してきている。従来のスタートラインと同じレベルから積み上げていくだけでは解決できない問題もある。

#### 4. 教育期間に関するもの

- 3年間の課程を前提にするかどうかも含めて検討してほしい。4年間で看護師と保健師を与えることの是非も含めて議論すべきである。
- 教育期間の延長が重要であることは、いくつかの報告書で出されており、そのためにはどうすべきか、具体的なところに焦点を当てて検討すべきである。
- 3年間の中では、内容を変えるなどの工夫の余地には限界がある。
- 医師、薬剤師、歯科医師は、臨床研修制度の制度化や教育年限の延長がなされているが、これから重要となる看護の状況を考えなくてはならない。これまでは看護基礎教育のカリキュラムの改定の度、総時間数、特に臨地実習の時間が少なくなっており、教育期間の延長ということも含めて、臨地実習の位置づけを考え直す必要がある。
- 看護師に期待される役割や学ぶべき知識・技術が増えているにもかかわらず、教育時間は変わっていない。この年限では足りないと思われ、単にカリキュラムの改正にとどめるべきではない。

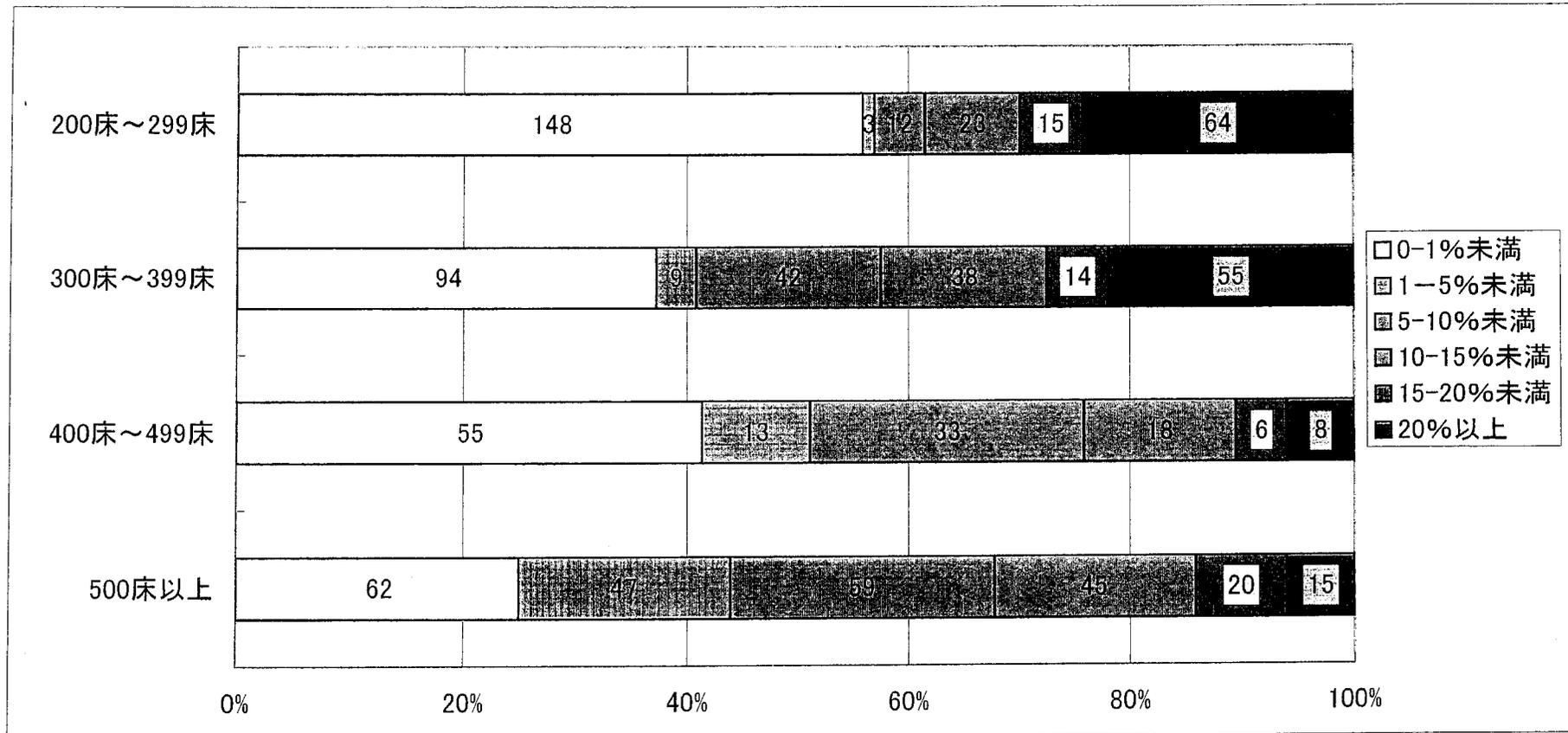
#### 5. 看護と保健、助産の位置づけに関するもの

- この検討会において看護基礎教育のあり方をグランドデザイン的に描いてはどうか。
- 看護の大学が急速に増え、保健師と看護師をほぼ100%履修しているが、そのことの是非も保健師の側からは大変問題になっている。
- 基礎教育とはどこまでのことか。また、専門職の生涯教育までを全部含めてグランドデザインを決めるのか。
- 保健師、助産師、看護師の3師とも基礎教育、ジェネラルな教育という形で置いていいのか。アメリカ、韓国のように保健師、助産師をアドバンスコースと位置づける議論をしてほしい。

# 新卒看護職員の早期離職の状況（病床規模別）

資料2

病床規模	新卒採用者数の合計	新卒離職者数の合計	離職率	離職率別病院数						
				0-1%未満	1-5%未満	5-10%未満	10-15%未満	15-20%未満	20%以上	合計
200床～299床	2,051	207	10.1%	148	3	12	23	15	64	265
300床～399床	3,564	389	10.9%	94	9	42	38	14	55	252
400床～499床	2,688	192	7.1%	55	13	33	18	6	8	133
500床以上	10,573	871	8.2%	62	47	59	45	20	15	248



資料：2004年 新卒看護職員の早期離職等実態調査， 日本看護協会中央ナースセンター

## 職場定着を困難にしている理由(病床規模別)

(社)日本看護協会 2004年「新卒看護職員の早期離職等実態調査」より

【調査期間】平成16年11月～平成16年12月

【調査方法】200床以上の前病院2,879施設の看護部長宛に送付し、記入を依頼

【回収状況】有効回収1,219施設(回収率42%)

許可病床数 区分	病院数	看護職員 に従来より 高い能力が 求められる ようになって きている	基礎教育 終了時点の 能力と看護 現場で求め る能力との ギャップ	現場の看護 職員が新卒 看護職員に 仕事のなか で教える時 間がない	新卒看護 職員を計画的 に育成する 体制が整っ ていない	看護業務 が整理され ていないため 新人が混乱 する	交代制など 不規則な勤 務形態による 労働負担が 大きい	自分が医療 事故を起こ すのではない か、という不 安で萎縮して いる	個々の看護 職員を「認め る」「ほめる 」ことが少な い職場風土	現代の若者 の精神的未熟 さや弱さ	現代の社会・ 経済的な状況 が経済的自立 の必要性を弱 めている	新卒看護 職員が看護 の仕事の魅 力を感じにく い状況がある	その他	無回答
200床～299床	362	51.9%	76.2%	42.3%	31.5%	21.5%	35.4%	27.3%	24.3%	72.9%	33.1%	34.6%	11.9%	11.3%
300床～399床	320	57.2%	80.9%	39.7%	20.6%	15.9%	38.8%	28.8%	19.1%	78.1%	37.5%	31.3%	11.3%	6.9%
400床～499床	152	59.2%	88.2%	40.8%	17.1%	22.4%	45.4%	28.9%	23.0%	80.3%	35.5%	32.2%	11.8%	6.6%
500床以上	273	66.7%	89.0%	46.2%	15.8%	15.0%	45.4%	38.1%	23.8%	84.2%	39.2%	31.1%	10.3%	4.8%
病床規模不明	21	33.3%	81.0%	33.3%	23.8%	14.3%	38.1%	38.1%	28.6%	90.5%	28.6%	57.1%	4.8%	14.3%

## 看護師養成課程卒業者の状況

資料3

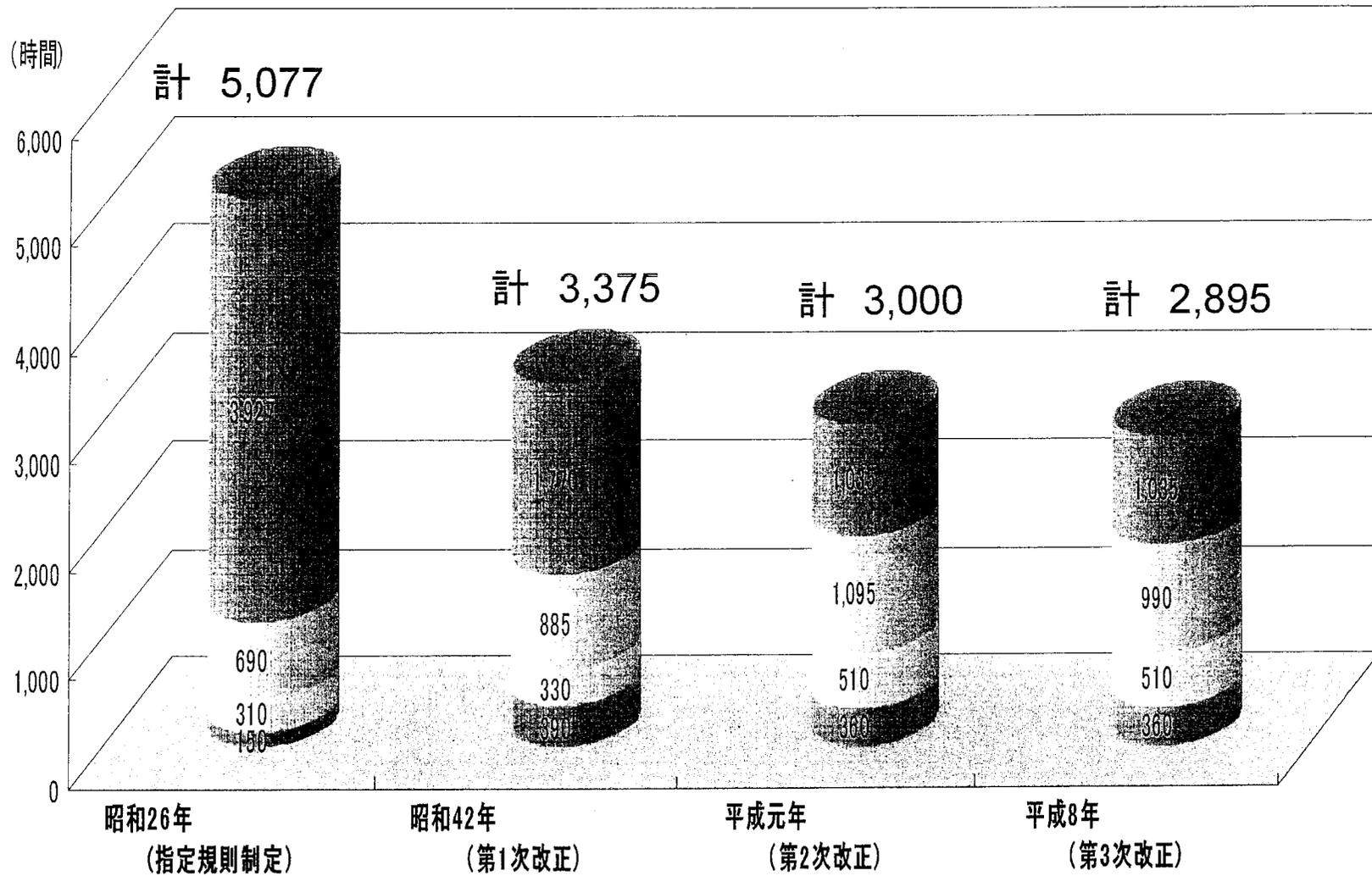
	卒業状況			就労状況		
	卒業者数	入学時学生数	卒業者割合 (%)	看護師として就業	進学	その他
平成8年	43,287	46,406	93.3	37,285	2,581	3,421
平成9年	45,372	49,374	91.9	38,336	2,676	4,360
平成10年	47,061	51,313	91.7	38,529	2,918	5,614
平成11年	47,495	52,278	90.9	42,098	3,077	2,320
平成12年	47,320	52,058	90.9	41,930	2,978	2,412
平成13年	47,102	51,787	91.0	37,738	2,841	6,523
平成14年	46,403	51,426	90.2	37,153	2,735	6,515
平成15年	46,257	50,922	90.8	40,059	2,622	3,576
平成16年	46,241	50,564	91.5	39,637	2,603	4,001
平成17年	44,852	49,099	91.4	38,967	2,476	3,409

(参考)

国家試験 受験者数 (新卒)	国家試験 合格者数 (新卒)	国家試験 合格率% (新卒)
—	—	—
45,242	40,979	90.6
46,866	41,578	88.7
47,190	46,726	99.0
46,926	46,005	98.0
46,657	40,319	86.4
45,778	40,424	88.3
45,657	43,860	96.1
45,485	43,056	94.7
44,095	41,976	95.2

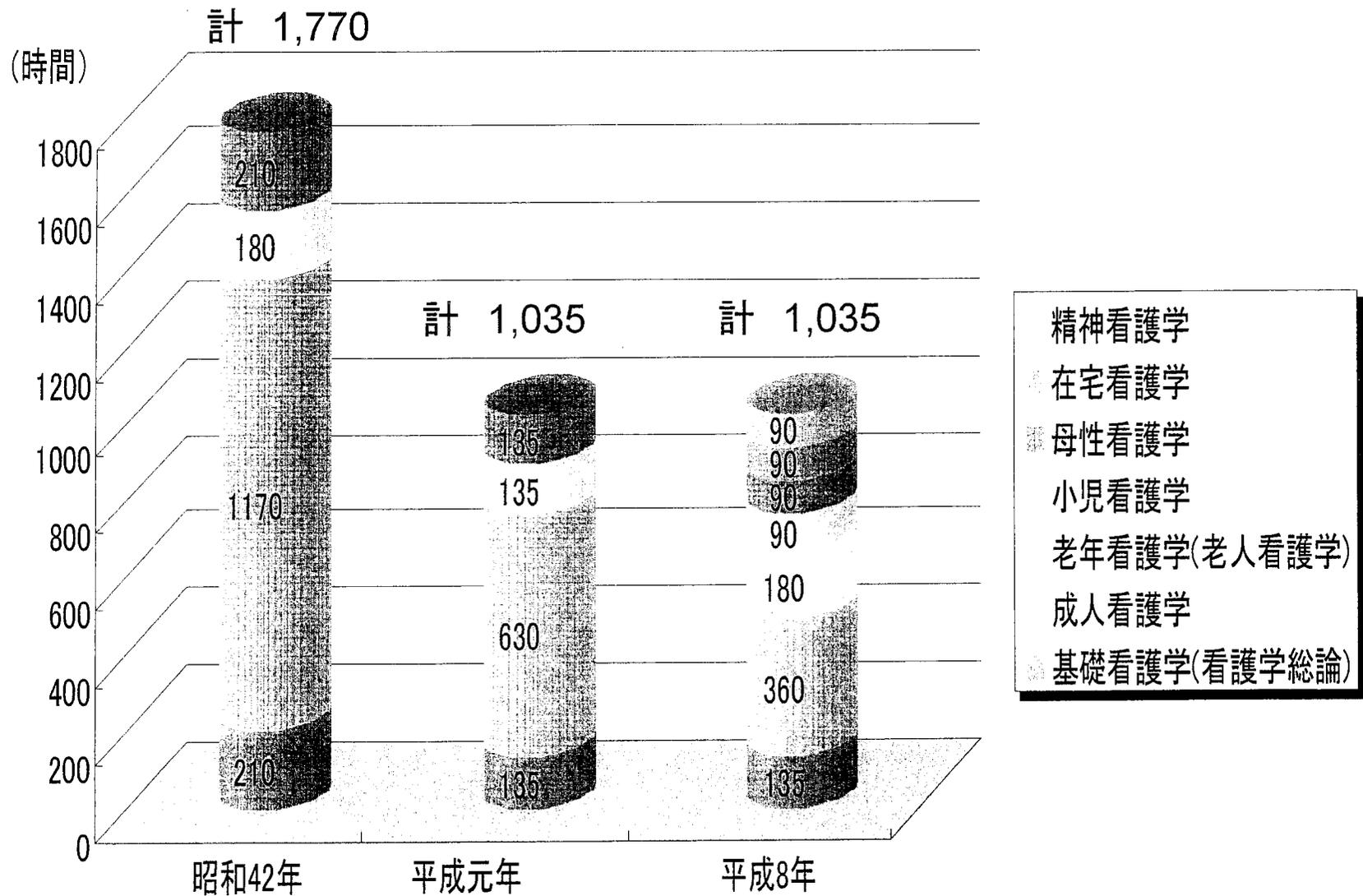
出典) 看護関係統計資料集、看護師国家試験の合格発表 (厚生労働省)

# 看護師3年課程 教育時間の推移



基礎分野
  専門基礎分野
  専門分野(講義・演習)
  専門分野(臨地実習)

# 看護師3年課程 実習時間の推移



平成 18 年 5 月 12 日  
日本看護協会

## 2005 年「病院における看護職員需給状況調査」における新卒採用者の離職状況について(速報)

- ・「病院における看護職員需給状況調査」
- ・1995 年度を初年度として以後毎年実施。

〔目的〕 全国的な規模で病院における看護職員などの需給動向を把握し、看護マンパワー問題への対応を検討するとともに、需給対策についての提言を行う上での基礎資料とする。

〔調査時期〕 2005 年 10 月～2006 年 1 月

〔調査対象及び調査方法〕 病院全数（9,190）の看護部長に郵送配布・郵送回収。無記名自記式。

〔結果〕 有効回収数 3,957 票(回収率 43.1%)

### 新卒採用者の離職状況

回答病院数	新卒採用者数(A)	新卒採用者のうち、年度末までに退職した者(B)	新卒採用者離職率 (B)/(A)×100 (%)
1,607	20,709	1,923	9.3

表 病床規模別新卒採用者の離職率

病床規模	新卒採用者数	新卒退職者数	離職率(%)	離職率別病院数						合計
				0-1%未満	1-5%未満	5-10%未満	10-15%未満	15-20%未満	20%以上	
20床~99床	472	85	18.0	139	-	1	4	2	53	199
100床~199床	2027	277	13.7	295	-	11	21	15	119	461
200床~299床	2070	252	12.2	141	2	18	24	15	71	271
300床~399床	3290	319	9.7	107	9	37	26	18	40	237
400床~499床	2502	193	7.7	65	12	27	15	9	15	143
500床以上	9048	694	7.7	55	43	58	25	20	15	216
無回答	1300	103	7.9	38	7	10	6	5	14	80

